

虚子記念文学館投句特選句・令和七年十月

稲畑廣太郎 選

かげといふかげを沈めて水澄める 岡山 石井宏幸

今年米届く伏見に灘郷に 香川 三宅久美子

閉ぢられし庭の木の揺れ小鳥来る 奈良 堀田建夫

撫子の風にささやく小さき嘘 兵庫 池田雅かず

夕萩や筆ペンで書くさやうなら 大阪 押見げげば

冬支度サイズ変はりし吾子の服 兵庫 武田優子

はつきりと黒々と白山の秋 石川 辰巳葉流

束ねても竜胆どこか影寂し 兵庫 黒田千賀子

自習室ノート片手の夜食かな 兵庫 武田奈々

(青少年)

窓際の教科書めくる風九月 兵庫 藤丸慎士

(青少年)

入選句・令和七年十月

空よなにをはずかしがつていわし雲	千葉	鹿野川小舟	新酒酌み交はし忘れる米不足	兵庫	金田八江子
地下深くプレート沈む花野かな	埼玉	小田毬藻	小鳥来る水に息づく淡海に	兵庫	山之口倫子
隠沼の時間をすすめ石たたき	大阪	多田羅紀子	自転車の時速秋の蚊の追ひ越しぬ	大阪	北上美佐子
災ひを祓ひ風神豊の秋	奈良	山口廣世	六甲の長き屋根霧どこまでも	兵庫	川村ひろみ
銀鼠となりし秋雨や芦屋浜	兵庫	谷本逸歩	小鳥来て天金の書に影落とす	鳥取	前田 千
老木の桜紅葉に命見ゆ	三重	中島庸子	雨よけて潜る芦屋の新松子	兵庫	伊東伸子
竹林の句碑に囁く秋の風	兵庫	奥田好子	鬼太郎の目玉親父の鳥威	兵庫	上岡あきら
富士山の横腹よぎる赤蜻蛉	兵庫	松浦百重	手に掬ぶ湧水に揺れ水引草	大阪	杉山千恵子
小鳥来る幸せな声放ちつつ	三重	松村咲子	風紋の細波目指し鰯雲	兵庫	高野さち
朝の窓開け爽やかな風を呼ぶ	石川	辰巳昌彦	弱音吐く老老介護鴟高音	兵庫	小柴智子
振り向きて会釈斜めに秋日傘	三重	池本準一	山荘のケーキ特製秋仕様	兵庫	小川孝子
宮水は郷土の誇り今年酒	兵庫	宮本露子	あと十日残す万博秋の雨	兵庫	長安悦子
とんぼうの低く群るるも御神前	大阪	若林友子	杉玉を吊りて新酒の試飲会	三重	前出美千子
萩の風昨日と違ふ今日の色	奈良	河村久美子	あの庭の檸檬見上げて今日も行く	兵庫	藤丸千香子
神の水集めて醸す新走り	大阪	ふじもと言果	お目見えの御所人形や後の月	大阪	森重深鶴
秋灯に湊かなえの新作本	石川	白根寿子	ヘルメット脱ぎて五合目秋の風	茨城	杉山 満
爽やかに芦屋市長の快挙かな	大阪	谷本房子	更待に当たりは一度きりの浮き	富山	三河三可
一瞬の襲撃にあふゐのこづち	奈良	堀田ますみ	秋高し大船ゆくり接岸す	兵庫	永沢達明
新米を送つて来れる句縁生れ	兵庫	森岡喜恵子	地元にはかけがへのなき秋祭	兵庫	深尾真理子
行く秋や先師の教へ呟きぬ	大阪	富永武司	爽やかな日和となりしホ句の旅	石川	赤島磨智子
長き夜や宿の棟木の裂くる音	奈良	堀ノ内和夫	見馴れたる四方の景色に秋の雨	大阪	林 曜子
何よりも今宵酌み合ふ新走	兵庫	平田 恵	里遠く秋七草に置く心	香川	葛原由起
こがねいろの栗飯ぬくし萩茶碗	兵庫	細田清子	渋皮も栗の旨味の菓子となる	京都	山崎貴子
虚子館へ桂落葉の彩を踏む	大阪	徳岡美祢子	早紅葉に雨のオープンミュージアム	兵庫	玉手のり子
			空真青晴れの特異日文化の日	兵庫	槌橋眞美

薬箱整へ父の冬支度	兵庫	中村恵美	てつぺんに残る熟柿の美しき	兵庫	山岸正子
風向きの軽やかに舞ふ秋日和	兵庫	河野ひろみ	目薬のひやりとしみて今朝の秋	兵庫	今井哲子
草じらみタイムカプセルこの辺り	兵庫	涌羅由美	六甲に沈む日の位置秋深む	兵庫	山崎渺美
北山を背景にして野菊濃し	徳島	多田まさ子	秋深し母の箆笥を片づける	兵庫	大西美知子
赤すぎる林檎に魔法ありさうな	兵庫	辻 桂湖	雨の夜のひと雫つつ秋深む	兵庫	三木雅子
拝観の清流に尽く秋の蟬	兵庫	岸川佐江	レーベルは魁夷の白馬新走	兵庫	風待ラテ
鎌首は上げぬと決めて穴まどひ	兵庫	吉村玲子	火起こしのいろはにほへと稲の波	静岡	いたまき忬
蓮の実や団地の皆が目撃者	インドネシア 慢鱔		やあ秋刀魚目合い挨拶「久しぶり」	兵庫	安橋興二郎
走り蕎麦またおかわりを妻も吾も	愛知	海神瑠珂	新米の香の階段を登り来る	兵庫	高市敦之
菊月夜おはしますかな庵主さま	大阪	深森明鶴	菜箸の先の焦げ色秋の暮	兵庫	岩永静代
秋潮を引きずつてゆく白き船	兵庫	瀬戸幹三	朴落葉庭に過ぎし日ありにけり	兵庫	辻田あづき
遠き世をなほ遠くする瓢の笛	大阪	須知香代子	秋冷の海へ一頭旅の蝶	愛知	小野 薫
共存と云ふも鹿垣てふ砦	大阪	河辺さち子	孫の茶毘櫓落葉に道埋もる	滋賀	近江堇花
名月の果ては無限の宙ばかり	京都	西村やすし	もみぢ葉を懷紙にはさみ持ち帰る	兵庫	恵島京子
ふるさとや車窓に淡き名残月	東京	清水ぽっぽ	小さき手の離さず眠る木の実かな	兵庫	恵島祥一朗
灯火親し俳句集成と親しめる	京都	杉森大介	染め付けの皿に堂々牡蠣はおり	神奈川	齋藤園子
金木犀耳石の少し動くなり	埼玉	吉田春代	朽ちかけの白き梯子や柿日和	三重	瀬川琴女
蜻蛉の風の何かを探す仕草	兵庫	天下明太郎	コスモスや宮跡渡る風の中	奈良	豚々舎休庵
ふればこそやはらかきかな彼岸花	三重	水越晴子	色変へぬ松に寄り添ふ一年草	東京	宮村土々
鴨来る浅瀬俄かに騒めきぬ	兵庫	足立朱麻	虚子館の庭の木漏れ日秋気満つ	兵庫	辻井市郎
ジーニーの出さうな雲や木の実降る	大阪	棕本望生	虚子館の小もれ日映ゆるタイルかな	兵庫	前田喜代美
蝶渡る六甲山に吹く風と	兵庫	福田光博	主なき毬の尖りや虚栗	和歌山	中島紀生
留守宅の雨戸に揺れし秋すだれ	兵庫	松本 敬	木犀や香りの主を探し見る	神奈川	小林 心
柿挽ぐや空を引つ掻く高鉄	兵庫	岩水ひとみ	社長車を見送る路地の夜寒かな	兵庫	伊集院秀樹
茜色に染まる土蔵や秋深し	兵庫	河合美恵子	秋晴の街震災とコロナ経て	兵庫	キートスばんじょうし

秋風や終に友の訃届きたる	兵庫	太平楽太郎
水遣りといふ楽しさや秋日和	愛媛	星月彩也華
色変へぬ松傾きしままの電柱	神奈川	平野孤舟
柿熟るる考の作りし挟み竹	兵庫	矢車星風
当て馬にされて秋日の車椅子	熊本	貴田雄介
シニヨンへ結い直しけり檀の実	滋賀	太田怒忘
毒だけや黄色くなった中切歯	滋賀	太田 慈
秋晴をつかひ切つたる眠りかな	神奈川	進藤剛至
		(青少年)